

国語

【時間】六〇分 【配点】一〇〇点

問題一 次の文章は、認知言語学者（西村義樹氏）と哲学者（野矢茂樹氏）

の間で行われた対談である。これを読んで、後の設問に答えなさい。

西村 まず、今回の話の前提として、カテゴリー化について話しておこうと思います。「カテゴリー化」といっても、とくに難しいことでも特別なことでもなくて、私たちがふだん何気なく行っている、「分類する」とか「種類に分ける」ということです。そんなこと、特別なときにしかやっていない、と思われるかもしれませんが、椅子に腰かけるときにも、それを椅子として分類・①シキベツしているからこそ、腰かける。 A、椅子というカテゴリーで捉えているわけです。

これが、言語の問題に大きく関わってきます。たとえば、「犬」という語の意味を理解しているというのはどういうことか、と考えてみます。それは、何かを見たときにそれが犬か犬でないか判断できることですよ。つまり、⑦「犬」のような語の意味が分かるとは、その語と結びついたカテゴリーが適切に使えることにほかならない、そう考えられます。

野矢 分類というとき、名詞が一番ピンときますが、名詞以外の例はどうですか。

西村 たとえば、「走る」でも、「走る」という語の意味が分かっているとはどういうことかといえば、ある動きを見たときに、それが走るという種類の動作なのか、それとも歩くとか這うとか⑧は違った動作なのか判断できるといふことだと言えます。

野矢 分類だけが言葉の働きのすべてとは言えないでしょうが、分類すること

が言葉の基本的な働きだということは、まちがいないでしょうね。

西村 「カテゴリー」という概念自体は、もちろん⑨認知言語学だけで用いられる概念ではありません。認知言語学の②タンジヨウ以前にも、カテゴリーという用語は使われていました。そこで、認知言語学の考え方と対比する意味で、認知言語学以前の「カテゴリー観」を「⑩古典的カテゴリー観」と呼んでおきます。古典的カテゴリー観がどんなものかというところ、これは、あるカテゴリーに入っているからには、入っているものすべてに共通の特性があるはずだという考え方に基づくカテゴリー観です。

野矢 ⑪それは、もう少し強く言わないとだめですよ。だって、すべてに共通の特性があるだけだったら、たとえば犬にはすべて動物という共通の特性があるけれど、それだけじゃ犬というカテゴリーを規定することはできない。

西村 そうですね。あるカテゴリーに入っているものを「成員」とか「メンバー」とか言いますが、一つのカテゴリーの成員には、そのすべてが共通にもち、その成員だけがもっている特性があるはずだ、というわけです。つまり、古典的カテゴリー観では、カテゴリーというのは必要十分条件——その成員を過不足なく⑬トクチヨウづける条件——によって規定できると考えます。

野矢 それは、言語哲学で伝統的に「内包」と「外延」という言葉を使って考えていたことと同じでしょうか。たとえば、数学の例が分かりやすいですね、自然数の中で偶数と奇数に分類する。そのときに、偶数をトクチヨウづけるような「2で割り切れる自然数」という必要十分条件があるわけですよ。奇数ならば「2で割り切れない自然数」。「2で割り切れる自然数」や「2で割り切れない自然数」という規定が内包と呼ばれるものです。そして「2で割り切れる自然数」を全部集めると、偶数の無限集合ができて、これが偶数の外延ということになる。こういう内包と外延で捉ええられるようなカテゴリー観が古典的カテゴリー観で

あると言つてよいのでしょうか。

西村 カテゴリーが、いま言った意味で必要十分条件によって規定できるとすると、カテゴリーの境界、カテゴリーに入るものと入らないものとの間の境界線は、まさにいま挙げられた偶数や奇数の場合のように、明確であることになりま
す。つまり、任意のものはあるカテゴリーの成員であるか、ないかのどちらかである。カテゴリーに入るかどうかはつきりしない成員はない、つまりカテゴリーの境界が曖昧になることはありません。

野矢 言語哲学では曖昧さの問題はとても難しい問題で、私はぜんぜんフォローしていませんが、印象としては、まず曖昧さのない概念を扱って意味論を考え、曖昧さの問題はその次に考えようという感じになっているんじゃないでしょうか。だから、**B**には古典的カテゴリー観が**C**だったわけで。

でも、境界が曖昧な概念なんていくらでもあって、「走る」などは「歩く」と連続的につながっていて、どこからが「走る」でどこからが「歩く」なのかは曖昧ですし、「赤」と「オレンジ色」も境界が明確ではない。

西村 レイコフは、「背が高い／低い」について、認知言語学が始まる前に、「曖昧な(fuzzy)カテゴリー」みたいな言い方で議論していましたね。彼は数学者のザデー(Lotfi A. Zadeh)が一九六〇年代に提唱したファジィ集合論を言語学も取り入れるべきだと考えていた時期があつて、これが認知言語学における「プロトタイプ」という考え方の一つの④ゲンリュウになっていきます。つまり、ある集合に対して、その集合の要素であるか要素でないかのどちらか一方しかないのではなくて、その間に連続した⑤テイドの違いを認めるような集合論です。

野矢 **D**、「どんぶり」の集合を考えたときに、ある食器は一〇〇パーセント「どんぶり」とはいえないけれど、七五パーセントぐらいは「どんぶり」と言える、とか(笑)。

西村 そういうことです。まさに「どんぶり」というカテゴリーは古典的カテゴリー観にしたがうのではなく、そのような**④**ファジィな捉え方をしなければいけないと、レイコフは考えたわけですね。

野矢 あ、そうか。最初に西村さんが「犬」という語の意味は何かではなくて「犬」という語の意味を理解している、とはどういうことなのか」と問いを立てた理由がいま分かりました。

西村 そうですね。

野矢 そうですね。自分で言つといて(笑)。いや、つまり、たとえば「偶数」のように境界が明確なカテゴリーならばそのカテゴリーに属するメンバーも取り出しやすい。その場合には確定したその集合をその言葉の意味として指定できる。だけど、「どんぶり」みたいに境界が曖昧な語だと、「どんぶり」の意味を集合として指定するのも難しいので、「どんぶり」の意味とは何か」と聞かれても、うまく答えられないわけです。そこで、曖昧なカテゴリーを積極的に認める認知言語学としては、むしろ分類できるかどうかを問題にすることになる。あるものをどんぶりとして分類するかどうかということであれば、グレーゾーンも認めやすいですからね。「どんぶり」という語の意味を理解しているとは、明確にどんぶりといえるものは明確にどんぶりであると判断し、微妙なものはそのまま微妙であるとの確に判断できるということだ、と。**E**、実は、西村さんの言い方は最初からすでに認知言語学寄りのものになっていたんですよ。

西村 そういうことだったんですね(笑)。

野矢 そういうことだったんです。

(西村義樹・野矢茂樹『言語学の教室』に拠る)

(注) 言葉を、われわれの事物の捉え方、それに対する態度(認知能力)と結び

つけて考えていく言語学の一分野。

問一 傍線部①「シキベツ」を漢字で書いたときの「シキ」と同じ漢字を含むものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 毛オリモノ
- 2 ガクシキ経験者
- 3 美しいシキサイ
- 4 コウシキを暗記する
- 5 シキイが高い

問二 傍線部②「タンジヨウ」を漢字で書いたときの「タン」と同じ漢字を含むものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 タンジユンな性格
- 2 経営がハタンする
- 3 タンラク的な犯行
- 4 閉山したタンコウ
- 5 キョタン妄説

問三 傍線部③「トクチョウ」を漢字で書いたときの「チョウ」と同じ漢字を含むものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 チョウテンを目指す
- 2 チョウジンのな動き
- 3 果敢にチョウセンする
- 4 チョウリュウに逆らう
- 5 チョウヘイ制度

問四 傍線部④「ゲンリュウ」を漢字で書いたときの「ゲン」と同じ漢字を含むものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 天然シゲン
- 2 ゲンインを調べる
- 3 ゲンカイ熊勢
- 4 ゲンエキを続行する
- 5 サイゲンなく続く

問五 傍線部⑤「テイド」を漢字で書いたときの「テイ」と同じ漢字を含むもの

を、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 景気がテイメイする
- 2 業務テイケイ
- 3 事実がロテイする
- 4 オンテイが合わない
- 5 売り上げがテイゲンする

問六 空欄Aに入れる語として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 たとえば
- 2 つまり
- 3 なぜなら
- 4 むしろ
- 5 あるいは

問七 空欄Bと空欄Cに入れる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 B 一般的 C 恣意的
- 2 B 歴史的 C 例外的
- 3 B 伝統的 C 支配的
- 4 B 学術的 C 普遍的
- 5 B 理論的 C 規則的

問八 空欄Dに入れる語として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 だから
- 2 しかし
- 3 たとえば
- 4 ところで
- 5 しかも

問九 空欄Eに入れる語として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選

べ。

- 1 だから
- 2 さらに
- 3 ところが
- 4 なぜなら
- 5 よもや

問十

傍線部「犬」のような語の意味が分かるとは、その語と結びついたカテゴリーが適切に使えることにほかならない」とあるが、それはどういふことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 「犬」という語の意味がわかってしまえば、それに関連するカテゴリーについての理解が促進される。例えば犬という語の意味がわかれば、同時に「猫」や「飼う」という言葉の意味も理解しやすくなるということ。
- 2 「犬」という語の意味が分かるとは、犬の定義を理解できているということである。例えば小さな子どもに対して「犬」の定義をわかりやすく説明できなければ、「犬」という語を本当に理解しているとは言えないということ。
- 3 あるものが犬か否かを区別できることが「犬」という語を理解しているということである。例えば「犬とは何か」を説明できなくても、犬かそうでないかを区別できていれば「犬」という語を理解できていると言えること。

- 4 「犬」という語の意味を本当に理解する上では、実際に犬という動物と接することが欠かせない。例えば犬という語を聞くだけでなく、実際に犬を飼い、触れ合うことによつて犬に対する理解が一層深まるということ。
- 5 「犬」という語を会話の中で使えないと、その意味を理解しているとは言えない。例えば言語を習得している最中の幼児は、猫を見ても「ワンワン」と言ってしまうが、それは「犬」という言葉を理解できていない証拠

だということ。

問十一

傍線部「古典的カテゴリー観」とあるが、その特徴の説明として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 「古典的カテゴリー観」では、あるものがそのカテゴリーに入るかどうかははっきりしている。
- 2 「古典的カテゴリー観」によれば、カテゴリーに分類することが言葉の最も大きな働きである。
- 3 「古典的カテゴリー観」によれば、私たちは常日頃から意識せずにカテゴリー化を行なっている。
- 4 「古典的カテゴリー観」では、あるカテゴリーと別のカテゴリーは連続しておりつながっている。
- 5 「古典的カテゴリー観」では、カテゴリーに属する成員の数が決まっているので取り出しやすい。

問十二

傍線部「それは、もう少し強く言わないとだめですよ」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 そのカテゴリーの成員だけが持っている特性・条件がなければカテゴリーを規定することはできない。
- 2 単に共通の特性があるというだけでなく、その特性が言語の違いを超えて共有されなければならないから。
- 3 カテゴリー化は「犬」といった名詞だけでなく、「走る」といった動詞に対しても行なわれるものだから。
- 4 そのカテゴリーを成立させる必要十分条件をみつけることは、強い意志

があつて初めて可能になるから。

5 共通する特性をカテゴリーの成員すべてが持っているということをはつきりと断言する必要があるから。

問十三 傍線部(4)「フアジイな捉え方をしなければならない」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の1〜5の中から一つ選べ。

1 カテゴリー観の境界が曖昧な「古典的カテゴリー観」では、例えば椅子と勘違いして座ってしまうような失敗を犯す危険性が高いため。

2 程度の違いを認めない「古典的カテゴリー観」に従えば、例えば自分のペースで歩いたり走ったりできない融通のきかない人間が育ってしまうため。

3 カテゴリー観の境界が変動しない「古典的カテゴリー観」では、例えば背が高い／低いといった時代や地域によって変化する基準を説明することができないため。

4 普遍的・客観的な「古典的カテゴリー観」に従えば、例えば同じ色が人によつては赤にもオレンジにも見えるという主観的な現象が許容できなくなるため。

5 カテゴリーの境界が明確な「古典的カテゴリー観」に従えば、例えば食器のように境界が曖昧なものに対する我々のカテゴリー化が説明できないため。

問十四 この対談の展開と内容に一致するものを、次の1〜5の中から一つ選べ。

1 認知言語学者である西村氏は我々が日頃体験する当たり前の事例か

ら出発し、次に海外の研究者の学説も交えながら、言語のはたらきであるカテゴリー化についての自身の研究成果を発表している。野矢氏は哲学者の立場から、西村氏の研究の過程に疑問を投げかけることで、氏の研究成果をより一層意義深いものとする手助けをしている。

2 西村氏は認知言語学の立場から、まず日常的な事例から出発してカテゴリー化と言語の関係を説明し、次に境界が明確な集合ばかりではないことを指摘して、曖昧さの重要性を立証している。野矢氏はその話を聞いたうえで、言語哲学でも曖昧さは大きな問題であることを告白し、両者の問題関心が共通のものであるという結論に達している。

3 西村氏は古典的カテゴリー観の批判者として、まず言語がカテゴリー化という働きをしているという学説の限界を説明し、次にカテゴリー化を超えた新たな言語の機能について解説をしている。野矢氏は言語哲学者の立場から西村氏の見解を批判的に検討し、彼の論が最初から自分に都合のよいものであったことを示して、その姿勢を糾弾している。

4 認知言語学者である西村氏は、まず言葉の基本的な働きであるカテゴリー化について説明し、次に古典的カテゴリー観を取り上げその限界を示し、それと異なる新たなカテゴリー観の存在を示唆している。一方哲学者である野矢氏は質問を交えながら議論を誘導することで、西村氏の考えを読者にわかりやすいように説明している。

5 西村氏は言語学の専門の立場から、まず古典的カテゴリー観に基づく言語の働きについて説明をした上で、次に「内包」と「外延」という言葉でカテゴリーの境界の、明確さを分析している。一方野矢氏は言語哲学の立場からカテゴリーの境界が曖昧である場合が多いことを指摘し、古典的カテゴリー観とは別のカテゴリー観があることを推測している。

問題口

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

そもそも、近代オリンピックにアマチュアリズムが導入されたのはなぜなのか。この点も確認しておこう。アマチュアリズムは、クーベルタンが考え出したものではない。また、第一回アテネ大会からアマチュアリズムが導入されていたわけでもない。

オリンピックがアマチュア選手の大会になったのは、一九〇八年ロンドン大会からだ。当時はまだ、IOCも「オリンピック」①「ケンシヨウ」を発行してはいなかった。オリンピックへの参加資格は、第三回セントルイス大会まで、IOCではなく、大会ごとに組織委員会が決めていたのである。

近代オリンピックは、歴史上初めての世界的なスポーツ大会であり、一八九六年アテネ大会のときには、まだ国際陸上競技連盟(IAEF)一九一二年)も国際サッカー連盟(FIFA)一九〇四年)も存在していなかった。競技ごとの世界的②「トウカツ」団体が設立されるより前に、オリンピックがスタートしているのである。結果的に、参加資格を厳密には規定しないままスタートすることになった。

事実、セントルイス大会まで、プロ選手はオリンピックに出場できないという規定はなかった。実際に、一九〇〇年パリ大会では、陸上競技や自転車競技でプロ選手が出場している。また、陸上競技や馬術競技では選手に賞金も出ている。

このような混沌とした状況に一つの解答、A 選手の参加資格について明確な基準を打ち出したのが、一九〇八年ロンドン大会の組織委員会だった。ロンドン大会への参加資格として「アマチュアのみ限定される」と、明確に規定したのである。

ロンドン大会の組織委員会が、B このような規定を設けたことは自然な流れだったと言える。そもそも、アマチュアという概念を確立したのは英国のスポーツ

界だったからだ。

アマチュアという概念を最初に成文化したのは英国の陸上競技連盟である「アマチュア・アスレチック・クラブ」で、一八六六年に初めて競技会を開催するにあたって、参加資格を「アマチュアに限る」とした。そのうえで、どういう選手をアマチュアと認めないかについて記述した。(1)賞金を目当てにプロフェッショナルと競技をした者(2)生活費を得るために競技を教えた者(3)雇用者としての機械工、職工、工場労働者、である。

今日の常識から見れば、(3)は職業によって選手を明白に差別しているわけだが、このようなルールがC まかり通った背景には、当時の英国社会の状況があった。

世界でいち早く産業革命の起こった英国では、十九世紀前半、都市部に人口が集中し始めると、長距離走の「賭けレース」が観客を集めるようになった。当時の新聞には、毎週こうしたレースの結果と、次週のレースの時間と場所が大々的に報道されている。こういった「賭けレース」には、賭け金や賞金のために走るプロのランナーがいたのである。英国の陸上競技連盟が、第一回の競技会にあたって「アマチュアに限る」としたのは、こうした「賭けレース」に出場しているプロランナーを排除することが目的だった。

B (3)の「雇用者としての機械工、職工、工場労働者」は、なぜアマチュアと認められないのか。

この項目は「アマチュア」という概念を作り出した英国特権階級のC をよく反映している。英国の特権階級とは、まず貴族のことを指していたわけだが、彼らは地主であったため、そもそも「労働」をする必要がなかった。彼らにとつて、金を稼ぐために働くことは恥ずべきことだった。彼らがスポーツをやるときは、スポーツによって得られる「楽しみ」や「喜び」だけが目的だった。

これは「ジェントルマン」の理念として非常に重要な部分で、彼らにとっては、果実(金銭的報酬)を生み出さない非生産的な行為にこそ価値があった。それは、金銭のために働く人々と自分たちを区別する価値観だったからだ。

一九世紀の英国では、社会の階層が「ジェントルマン」と「ノン・ジェントルマン」とに分かれていて、これは就いている職業によって明確に規定されていた。貴族、聖職者、法廷弁護士、内科医、大学教授、パブリック・スクールの教師などが「ジェントルマン」とされてきたが、言い換えれば、経済的な生産活動にかかわらない人々のことだった。この「ジェントルマン」が行うスポーツに参加する資格として、彼らが規定したのが「アマチュア」という概念だったわけだ。

D、産業革命の結果として大幅に増えた、経済的な生産活動に③シユウジする「雇用者としての機械工、職工、工場労働者」はノン・ジェントルマンであつて、それだけでアマチュアから除外されていたのである。

一九〇八年ロンドン大会の組織委員会は、この特権階級の人々、「ジェントルマン」によって構成されていた。委員長のデイズボロー卿はオックスフォード大学のボート・クラブおよびアスレチック・クラブで会長を④歴任した人物で、同時にIOC委員でもあつた。組織委員会にはケンブリッジ大学アスレチック・クラブで会長を務めた貴族もいた。彼らが大会の参加資格に「アマチュア」を持ち込んだのは当然の流れだったと言えるだろう。この流れを汲んで、のちにオリンピックケンショウにも「アマチュア」という言葉が登場することになるのである。

オリンピックと商業主義というテーマを考えるにあたって、⑤IOCという組織が、そもそも、こうした「ジェントルマン」たちが始めたものであつたことを忘れてはならない。

興味深いのは、近代オリンピックの創始者であるクーベルタンは、この英国の貴族たちほどアマチュアリズムを重要視していなかったことだ。近代オリンピック

クへの参加資格としてクーベルタンがアマチュアリズムを導入したことは事実だが、IOCが発行している「国際オリンピック委員会の百年」によると、彼はその後、アマチュアリズムの厳格な④テキヨウが現実的ではないことを理解して、次のように発言している。

「私には、スポーツ選手が五フランを受け取ったかどうかで全てが決まると考へるのは、教会を守る聖堂番がサラリーを受けとるので直ちに不信者と考へると同じように子ども染みたことに思へる」

「追及され、非難さるべき非常に多くの贖アマチュアがいる一方、誤つてプロとされた者も非常に多い、これは⑤キユウサイされねばならぬ」

しかし、こうしたクーベルタンの考え方は、IOC内部ではE 少数派だったようだ。クーベルタンがIOC会長を退任したあと、第三代会長アンリ・ド・バイエ・ラツール(一九二五〜四二)、第四代会長ジークフリード・エドストローム(一九四六〜五二)、第五代会長アベリー・ブランデージ(一九五二〜七二)の時代まで、⑥オリンピックは、矛盾をはらみながら「アマチュア選手の大団」として行われたのである。

(小川 勝『オリンピックと商業主義』に拠る)

問一 傍線部①「ケンショウ」を漢字で書いたときの「ケン」と同じ漢字を含むものを、次の1〜5の中から一つ選べ。

- 1 ケイケンを積む
- 2 ケンボウ術数
- 3 セイケン放送
- 4 ケンジョウの美德
- 5 日本国ケンポウ

問二 傍線部②「トウカツ」を漢字で書いたときの「トウ」と同じ漢字を含むものを、次の1〜5の中から一つ選べ。

- 問三 傍線部③「ジユウジ」を漢字で書いたときの「ジユウ」と同じ漢字を含むものを、次の1～5の中から一つ選べ。
- 1 資金をトウニユウする
 - 2 目的地にトウタツする
 - 3 素早くトウソウする
 - 4 天下をトウイツする
 - 5 国会でトウベンする

- 問四 傍線部④「テキヨウ」を漢字で書いたときの「テキ」と同じ漢字を含むものを、次の1～5の中から一つ選べ。
- 1 絶対フクジユウ
 - 2 ジユウオウ無尽
 - 3 ジユウナン体操
 - 4 ジユウダイ事件
 - 5 ジユウミン投票

- 問五 傍線部⑤「キユウサイ」を漢字で書いたときの「キユウ」と同じ漢字を含むものを、次の1～5の中から一つ選べ。
- 1 犯罪をテキハツする
 - 2 カイテキな生活
 - 3 キテキを鳴らす
 - 4 大海のイツテキ
 - 5 コウテキシユ

- 問六 空欄A・空欄Bに入れる語として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。
- 1 キユウケイ時間
 - 2 キユウエン物資
 - 3 キユウセイ疾患
 - 4 エイキユウ凍土
 - 5 コキユウ困難

- 1 A つまり B では

- 問七 空欄Cに入れる語として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。
- 2 A いわば B そこで
 - 3 A むしろ B しかし
 - 4 A そして B ところが
 - 5 A また B ところが

- 問八 空欄D・空欄Eに入れる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。
- 1 自律性
 - 2 協調性
 - 3 排他性
 - 4 後進性
 - 5 独創性

- 問九 傍線部⑥「まかり通った」とあるが、「まかり通る」の意味として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。
- 1 D したがって E むしろ
 - 2 D なぜなら E やはり
 - 3 D そこで E さして
 - 4 D ゆえに E あえて
 - 5 D ところが E もはや

- 1 ひっそりと行われる

- 2 堂々と通用する
- 3 賞賛をあびる
- 4 長時間持続する
- 5 世間の指示を得る

問十 傍線部④「歴任」の意味として最も適当なものを、次の1～5の中から

一つ選べ。

- 1 世襲によって引き継ぐこと
- 2 歴史的な業績を残すこと
- 3 一度に複数の職務に就くこと
- 4 長い間要職に就き続けること
- 5 次々に要職を務めること

問十一 傍線部⑦「このような規定を設けたことは自然な流れだったと言える」

とあるが、筆者がそのように言う理由として最も適当なものを、次の1～

5の中から一つ選べ。

- 1 ロンドン大会の組織委員会はイギリスの特権階級によって構成されており、彼らはプロランナーが参加した場合、自分たちが勝てないことを熟知していたから。
- 2 ロンドン大会の組織委員会はクーベルタンと敵対する勢力で構成されており、彼らはアマチュア規定をできるだけ早く整えることが大事だと考えていたから。
- 3 ロンドン大会の組織委員会はイギリスの特権階級で構成されており、彼らは金を稼ぐためにスポーツをすることを恥ずべき行為だと考えていたから。

ら。

- 4 ロンドン大会の組織委員会はクーベルタンと敵対する勢力で構成されており、アマチュアリズムを否定するクーベルタンを批判する意識が強かったから。
- 5 ロンドン大会の組織委員会はイギリスの特権階級によって構成されており、彼らはオリンピックを万人が参加できる大会にするという理念を持っていたから。

問十二 傍線部⑧「労働」には鉤括弧がついているが、その理由として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

- 1 英国の貴族たちが一切の労働をしなかったという事実を強調するため。
- 2 労働とスポーツが別のものであるという彼らの価値観を印象づけるため。
- 3 労働をする必要がなかったということが伝聞に基づくということを示すため。
- 4 ここでの労働があくまで経済的な生産活動に限られていることを表すため。
- 5 労働をしないことが美德であるという意外な事実について注意を喚起するため。

問十三 傍線部⑨「IOCという組織が、そもそも、こうした「ジェントルマン」

たちが始めたものであったことを忘れてはならない」とあるが、筆者はなぜそのように言うのか。その理由として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

1 オリンピックの商業化を批判する際しばしばオリンピックの本来の理念として叫ばれるアマチュアリズムが、実は現在の意識からは受け容れたい差別的な発想に基づいたものであるから。

2 オリンピックの崇高な理念として認識されているアマチュアリズムが、実は一部の人間の利己的な考えから生み出されたものであり、今後同じように悪用される危険性があるから。

3 プロのスポーツ選手が参加を認められている現在のオリンピックの成功を考えれば、アマチュアリズムを唱えた当時のジェントルマンたちの経済感覚は間違っていたと考えられるから。

4 アマチュアリズムがオリンピックに採り入れられたのは第一回のアテネ大会からではなくロンドン大会からであり、アマチュアリズムは歴史的に見ればまだ新しいものと言わざるをえないから。

5 近代オリンピックの創始者であるクーベルタンはアマチュアリズムに批判的であり、むしろ商業主義を徹底した現在のオリンピックこそスポーツの祭典に相応しい規模となっているから。

問十四 傍線部④「オリンピックは、矛盾をはらみながら「アマチュア選手の大

会」として行われたのである」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選べ。

1 スポーツ選手が競技によって金銭を受け取ることを完全に否定するアマチュアリズムは、競技のレベルを低下させるだけの偏狭な思想であったが、そうした思想を内包したままオリンピックは開催され、その結果かえって大金が動く一大商業イベントに発展していったということ。

2 IOCのメンバー達が導入したアマチュアリズムに近代オリンピック

の創始者であるクーベルタンは全面的に賛同しなかったが、そうした内部対立を抱え込んだ結果、クーベルタンはIOC会長退任を余儀なくされ、近代オリンピックの理念は歪曲されたということ。

3 企業から競技継続のための妥当な金品を受領した競技者まで、アマチュアリズムに反するとして追放するという処遇にクーベルタンは批判的であったが、そうした批判を無視しながらIOCはオリンピックを「アマチュア選手の大会」として開催し続けたということ。

4 多寡にかかわらず金銭の授受だけでプロとアマチュアを区別し、プロを競技の場から排除しようとするアマチュアリズムは現実に即したものではなかったが、そうした現実とのズレを抱えたまま、オリンピックはアマチュアリズムを理念として開催され続けたということ。

5 金品の提供を受けたことを隠してアマチュアを名乗る選手が多数存在し、そのことが既にクーベルタンによって指摘されていたにもかかわらず、そうした指摘を内々に隠蔽することによって、オリンピックはその時代の現実と妥協し、存続し続けてきたということ。

体育進学センター

【解答】

問題Ⅰ

問一 1 2	問二 1 5	問三 1 5	問四 1 1
問五 1 4	問六 1 2	問七 1 3	問八 1 3
問九 1 1	問十 1 3	問十一 1 1	問十二 1 1
問十三 1 5	問十四 1 4		

問題Ⅱ

問一 1 5	問二 1 4	問三 1 1	問四 1 2
問五 1 2	問六 1 1	問七 1 3	問八 1 1
問九 1 2	問十 1 5	問十一 1 3	問十二 1 4
問十三 1 1	問十四 1 4		

【解説】

問題Ⅰ

問一 〈識別〉 …… 1 1 毛織物 2 1 学識 3 1 色彩 4 1 公式 5 1 敷居
問二 〈誕生〉 …… 1 1 単純 2 1 破綻 3 1 短絡 4 1 炭鉱 5 1 虚誕
問三 〈特徴〉 …… 1 1 頂点 2 1 超人 3 1 挑戦 4 1 潮流 5 1 徴兵
問四 〈源流〉 …… 1 1 資源 2 1 原因 3 1 厳戒 4 1 現役 5 1 際限
問五 〈程度〉 …… 1 1 低迷 2 1 提携 3 1 露呈 4 1 音程 5 1 低減

漢字の問題は、たとえ選択肢(マークシート)方式の出題であったとしても、すべての字を一度書いてみてから解を出すべきだ。たとえば、こういうことを行なうと、問二の問題などは消去法で正解を出すことが出来る。

問六 〈文頭に空欄がある⇒空欄に入るのは接続語である〉。空欄の前後の一文ずつをよく見よ——「:椅子として分類・識別している」⇒「椅子とい

うカテゴリーで捉えている」——前後の文が同意表現となっている。したがって、空欄には「言い換えの役割を果たす接続語」が適当である。したがって「つまり」が適当である。

問七 空欄Bにせよ、空欄Cにせよ、選択肢に重複する語がない。ということとは、空欄Bか空欄Cのどちらかの解さえ確実に出せれば、正解を出すことはできる。空欄を含む一文の冒頭は「だから」で始まる。これは前述内容と意味上の関係があることを示す。野矢氏は「言語哲学」について述べている。似たような箇所は、二つ前の段落にもある。二つ前の段落では言語哲学の「伝統的」な考え方について述べている。さらに、この対談のテーマは「古典的カテゴリー観」とはどういうものなのかについて論じているから始まる。野矢氏はこの言葉と伝統的な言語哲学のあり方が似ているのではないかと述べている。つまり多少強引だが「古典的⇒伝統的」という言い換え関係も成り立たせることができるだろう。したがって、空欄Bに伝統的という語が適当だとわかる。

問八 空欄D以下を見よ。「食器」と「どんぶり」という語どうしの関係がどういうものかを考えればよい。「食器」という、より抽象的な概念を具体的に(具体的な名称を用いて)表すというのが、この関係である。「どんぶり」は「食器」の具体例なのである。

問九 空欄Eを含む一文を見よ——「:実は西村さんの言い方は最初からすでに認知言語学寄りのものになっていた。」野矢氏の発言をよく見よ。二つ前の段落で「言う——」最初に西村さんが「『犬』という語の意味を、理解しているとはどういうことなのか」と問いを立てた理由がいま分かりました」とある。さらに「認知言語学としては、むしろ分類できるかどうかを問題にすることになる」とある。続けて「:意味を理解しているとは、

明確に：言えるものは明確に：判断し、微妙なものはそのまま微妙であるとの確に判断できるということ」と述べている。つまり、「いま分かりました」という内容(根拠)を説明しているのが設問部分なのである。そう考えれば、空欄に適当なものは〈理由・根拠を示す接続語〉、したがって「だから」となる。

問十 傍線の直前に「つまり」、言い換えの接続語があることを見逃さないこと。傍線部と、その前の一文とは同意表現である。もう少し踏み込んで言う、「つまり」の前の一文は傍線部の解の根拠であり、それを正確に言い換えているものが解となる。設問を見よ——「それはどういうことか」——〈同意表現となつているものはどれか〉。

問十一・問十二 この二問は相互に関連しており、片方の解を出そうとすれば、もう片方の解を出すこともできるので、併せて説明する。以下のように手順を踏んでいけばよい。(1) 傍線に続く一文には「これは」という指示語がある。指示内容は傍線部である。「これは」以下は傍線内容の説明でもある。(2) 野矢氏はこの説明を「それは」という指示語で受けておいて、「もう少し強く言わないとだめ」とさらなる説明を西村氏に求める。

(3) 西村氏は(2)について「そうですね」と同意し、さらにその詳細な説明を行い「その成員だけが持っている特性がある(はずだ)」と述べる。まず、問十一についていうと、解の根拠となるのは「その成員だけが持っている特性」という記述である。つまり、共通の特性をよりはっきりとさせている。また、問十二もこの記述が解の根拠となる。

問十三 「曖昧な(fuzzy ファジー)」という言葉の意味だけで十分に解を出すことはできるのだが、念を入れておくと、傍線部の直前に指示語がある。指示語は一つ前の文の記述を指示内容とすることが多い。野矢氏の発

言である。「二〇〇パーセント＝完全にどっぷりである」／「七十五パーセントくらいは＝完全ではないがどっぷりである」。〈完全なもの＝はつきりしている〉↑↓〈完全ではない＝はつきりしていない〉。

問十四 ここでカギとなるのは、野矢氏の発言の仕方である。(1) 問いかけを発するのは必ず野矢氏である、(2) 具体例を出すことが多い、(3) 西村氏が気付いていなかった点を最後に指摘している——こうした〈特徴〉に触れているものが正解である。

問題Ⅱ

問一 〈憲章〉 …… 1 経験 2 権謀 3 政見 4 謙讓 5 憲法

問二 〈統轄〉 …… 1 投入 2 到達 3 逃走 4 統一 5 答弁

問三 〈従事〉 …… 1 服従 2 縦横 3 柔軟 4 重大 5 住民

問四 〈適用〉 …… 1 摘発 2 快適 3 汽笛 4 一滴 5 好敵手

問五 〈救済〉 …… 1 休憩 2 救援 3 急性 4 永久 5 呼吸

——問一「トウカツ」について。解としては「統轄」および「統括」の両方が考えられるが、以下の理由で「統轄」を正解とする——①「統括」というのは単に別個にある物を、調整して一つにまとめるという意味しかない。②前文では団体・組織について述べられている。「統轄」には上位機関が全体を包括的にまとめて統治するという意味がある。したがって、語としてはこの方が適切である。

問六 空欄が一文のどの位置にあるのかということ、考え(解き)方がわかる。この場合、いずれの空欄も一文のオマタにあるので、解となるものは〈接続語〉、もしくは陳述副詞の構文を完成させるものだと思われる。結論から言うと、この問題は〈接続語〉が解となる。この場合、空欄の

前後の文(もしくは節)が意味上ではどういつながりなのかを見ればよい。図式化すると、「このような混沌とした状況(＝参加資格が厳密に規定されていない)に一つの解答(以上D) ……:「明確な基準を打ち出した」(以上g)―(p||g)という図式が成立するので、空欄Aには言い換えの役割を果たす接続語が適切であることがわかる。次に「金儲けとしてのスポーツを排除する」(以上E):「労働者をアマチュアとして認めないのはなぜか」(以上S)―rとsとでは内容が変化しているの、話題の転換の役割を果たす接続語が適当。

問七 この場合空欄は文の半ばにあるので、同じ空欄の問題であっても「同意表現」である可能性が高い。空欄Cにかかる語は「英国特権階級」である。次の文を見よ。「特権階級＝貴族」であることがわかる。さらに次の段落、とくに段落末尾を見よ。「雇用者としての…労働者は…アマチュアから除外されていた」―〈除外＝排他(性)〉。

問八 結論から言うと、この場合空欄Dは接続語、空欄Eは構文完成である。「特権階級＝貴族＝ジェントルマン」(以上t):「労働者＝ノンジェントルマン」(以上u)―uとtとは因果関係であるので、空欄Dには「したがって」が妥当する。一方空欄Eは、アマチュアリズムを主張する意見の大勢に対して、クーベルタンの意見が少数派であることを強調している。この場合であれば「むしろ」を用いて強調していると考えるのが妥当である。

問九 「まかり通る」というのは「常識的に考えて」良くないことが広く受け入れられる」という意味がある。この傍線の前にある記述を見よ。「明白に差別している」。

問十 デイズボロー卿の務めてきた仕事を見ればよい。「委員長、会長」

…カンタンに言うと「偉い人」である。ちなみに、「卿」というのは称号で、貴族や国家的な功績をあげた人物(＝偉い人)に付与されるものである。

問十一 指示語の指示内容が何であるか、ということから取り掛かるべし。指示内容は前文の内容、つまり「オリンピックの参加資格を『アマチュア』に限ると明確に規定したこと」である。続く英国スポーツ界についての記述(ただし、五段落に渡るが…)をまとめたものが解。

問十二 傍線部を含む段落の末尾の一文を見よ。「『ジェントルマン』の理念として非常に重要な部分で…(金銭的報酬)を生み出さない非生産的な行為にこそ価値があった」―このくだりを言い換えたものが解である。

問十三 「ジェントルマン」という表記こそ最大のヒントである。かぎカッコを打ってある語というのは、文章を理解するうえで重要な役割を果たす。つまり、「ジェントルマン」とはどういう意味を持つ語であるのか、これについては文中で丁寧に論じている。前の問題を見てみよ。これもまたヒントとなる。

問十四 この段落の出だしにはこうある―「こうしたクーベルタンの考え方は…」―では、「クーベルタンの考え方」とはどういうものか。端的にいうと、アマチュアとプロとを厳格に分けたうえでプロ選手を排除するというのは現実的ではない、ということである。「矛盾をはらむ」という表現も重要で、「アマチュア選手の大会」という理想と、「現実」―クーベルタンの考え方が噛み合わない、一致しないまま行われてきたということを指す。